

## 今、海洋生態系には何が起きているか? -ベーリング海の観測から-

## A002-1

# 原田 尚美 [1]

# Naomi Harada[1]

[1] JAMSTEC, IORGC

[1] JAMSTEC, IORGC

植物プランクトンは、海洋の二酸化炭素吸収における生物ポンプとしての重要な役割を担っています。中でも珪藻と円石藻は、それぞれガラス質（ケイ酸塩）炭酸カルシウムの殻を持ち、海洋の中・深層へこの殻が「錘り」になって有機物を効率よく輸送すると考えられており、海洋の物質循環において最も重要な植物プランクトンです。

太平洋と北極海を繋ぐ位置にあるベーリング海では、繁茂する主な植物プランクトンは珪藻であり、生産が活発に行なわれ、世界の海の中で二酸化炭素をよく吸収する海域の一つです。ところが、1997年に高解像度の衛星 (SeaWiFS) 写真が捉えたベーリング海東部陸棚域は、珪藻ではなく、大増殖した円石藻で真っ白に覆われていました。

ベーリング海東部陸棚域の円石藻の大増殖はいつから、なぜ起きるようになったのか？これらの疑問に答えるために多くの研究者との連携して行なってきた最新の研究成果について紹介したいと思います。